

U.S. Indicators

発表日: 2019年10月4日(金)

米国 19年9月雇用統計

～労働市場は依然逼迫しているが緩和方向～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

米国雇用統計

	失業率	非農業部門雇用者数							平均時給		労働時間	労働投入量		
		全体	製造業	建設業	サービス関連業			政府	前月比	前年比		前月比	年率※	
		前月差	前月差	前月差	全体	小売業	狭義サービス							前月差
四半期														
17.1Q	4.6	173	13	26	129	▲11	110	8	0.6	2.6	33.6	0.3	1.4	
17.2Q	4.4	190	8	17	158	▲14	129	9	0.6	2.5	33.7	0.6	2.4	
17.3Q	4.3	136	16	16	102	▲3	72	2	0.7	2.7	33.6	0.4	1.5	
17.4Q	4.1	218	26	30	161	▲1	125	9	0.5	2.5	33.7	0.7	2.8	
18.1Q	4.1	228	22	36	162	9	107	7	0.8	2.7	33.7	0.5	2.0	
18.2Q	3.9	243	25	28	183	▲4	148	15	0.8	2.9	33.8	0.6	2.6	
18.3Q	3.8	189	15	23	147	▲6	100	14	0.9	3.0	33.8	0.5	1.8	
18.4Q	3.8	233	25	15	190	6	155	▲3	0.8	3.3	33.7	0.4	1.7	
19.1Q	3.9	174	7	16	149	▲6	126	8	0.8	3.3	33.7	0.5	1.8	
19.2Q	3.6	152	5	18	129	▲13	114	6	0.7	3.1	33.6	0.1	0.5	
19.3Q	3.6	157	1	3	156	▲6	108	37	0.8	3.1	33.6	0.2	1.0	
月次														
1901	4.0	312	17	56	232	9	163	15	0.1	3.2	33.8	0.2	1.7	
1902	3.8	56	8	▲23	75	▲14	69	10	0.4	3.4	33.6	▲0.3	2.2	
1903	3.8	153	▲3	15	140	▲15	146	0	0.2	3.2	33.7	0.5	1.8	
1904	3.6	216	3	34	179	▲15	145	21	0.1	3.2	33.6	▲0.2	1.1	
1905	3.6	62	2	1	57	▲12	73	▲19	0.3	3.1	33.6	0.1	1.0	
1906	3.7	178	10	19	151	▲12	123	17	0.3	3.2	33.6	0.1	0.5	
1907	3.7	166	4	▲3	170	▲2	105	44	0.3	3.2	33.5	▲0.2	0.5	
1908	3.7	168	2	4	167	▲6	117	46	0.4	3.2	33.6	0.5	0.5	
1909	3.5	136	▲2	7	131	▲11	101	22	▲0.0	2.9	33.6	0.1	1.0	

19年9月の非農業部門雇用者数(季節調整済み、事業所調査)は、前月差+136千人(8月同+168千人)と小幅減速し、市場予想中央値の前月差+145千人を下回った(筆者予想の前月差+136千人と一致)。ただし、巡航速度(前月差+10万人程度)を上回っており、堅調さは維持されている。

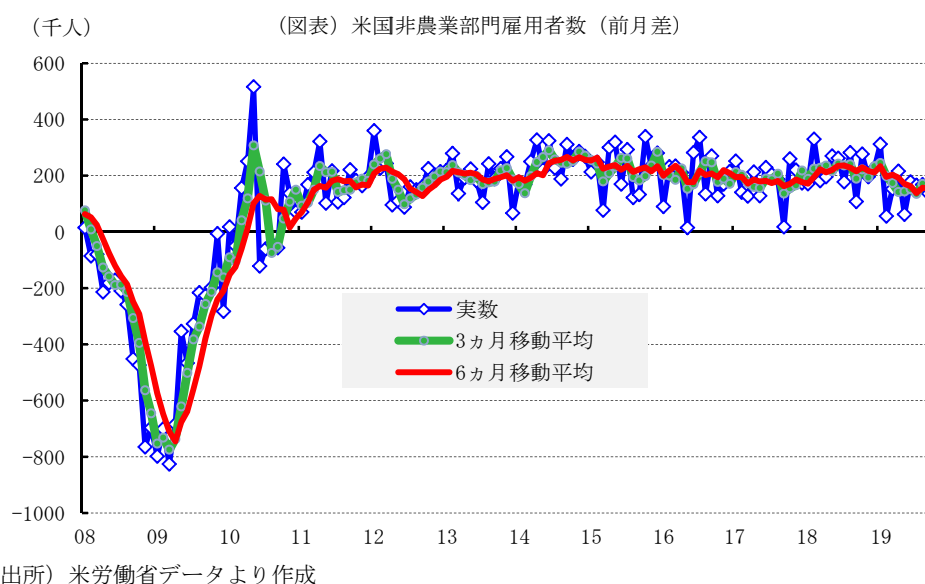
政府が前月差+22.0千人(8月同+46.0千人)と鈍化したうえ、民間が前月差+96千人(8月同+131千人)と減速した。民間では、医療、社会扶助、芸術・エンターテインメント・余暇などが好調を維持したものの、製造業、鉱業、教育サービス、宿泊関連が減少に転じたほか、小売業、公益が減少幅を拡大した。製造業では、GMのストの影響を受けなかったにもかかわらず、自動車部門の減少幅が拡大したため、製造業全体でも減少に転じた。

9月の失業率(U3、家計調査)は、3.5%(前月3.7%)と低下した一方、平均時給は前月比で小幅マイナスとなり、前年比で鈍化した。

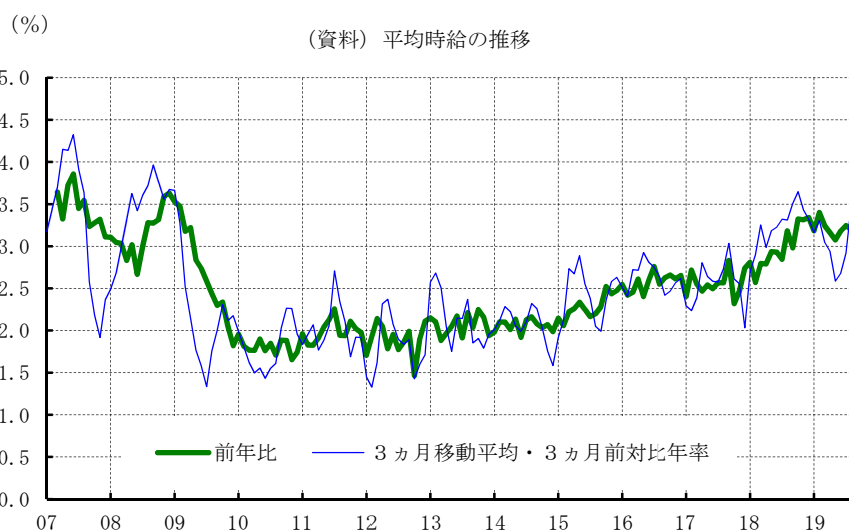
以上のように、9月の雇用統計は、総じて労働市場の逼迫が続いているものの、その程度が徐々に緩和していることを示している。

雇用の増加基調をみると、3ヵ月移動平均(7、8、9月)では、非農業部門が前月差+157千人(前月同+171千人)、民間部門が同+119千人(前月同+135千人)と減速した。また、より一時的な変動の影響を排除できる6ヵ月移動平均の非農業部門(19年4-9月)は前月差+154千人(前月同+157千人)と小幅鈍化した。雇用の増加ペースは国内需要の拡大によって堅調さを維持しているものの、ト

ランプ政権の強硬な通商政策や中国の自国企業の保護政策に伴う終わりのみえない貿易戦争、世界景気の減速、ドル高等の影響により徐々に巡航速度（前月差+10万人程度）に向けて鈍化している。



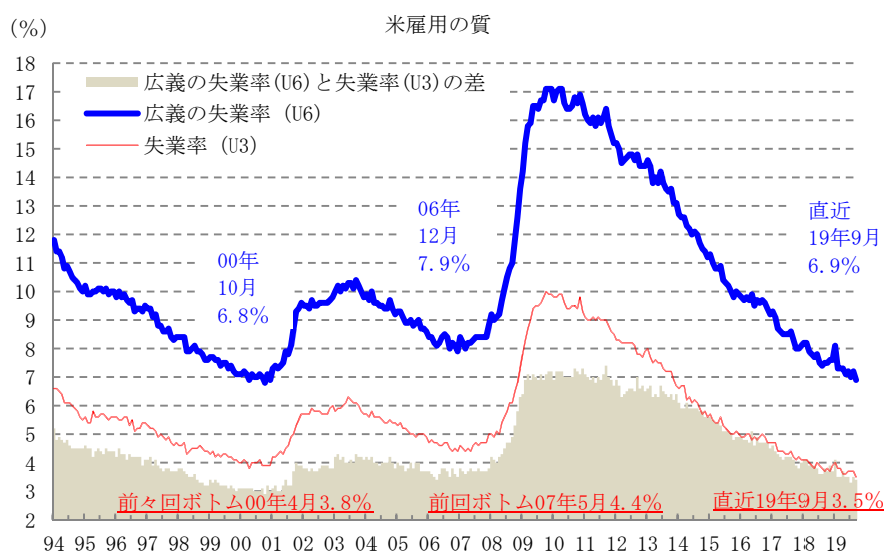
平均時給は、9月に前月比▲0.0%（前月同+0.4%）、前年比+2.9%（前月同+3.2%）と市場予想を下回り、鈍化した。労働市場の逼迫の程度が緩和するなか、平均時給の伸びが緩やかに鈍化している。



9月の失業率（U3、家計調査）は、3.5%（前月3.7%）と市場予想の3.7%反して、前月から低下した（筆者予想3.7%）。小数点第3位までみると3.517%（前月3.687%）と、1969年6月の3.490%以来の低い水準に低下した。また、広義の失業率（U6）は、6.9%（前月7.2%）と低下し、前々回の景気拡大局面での最低値の6.8%に近づいた。雇用が労働力人口の増加ペースを引き続き上回って拡大しており、失業率は低い水準で推移している。

失業率は、当社の想定通り1969年12月につけた3.533%を下回った。今後、実質GDP成長率が前

期比年率+2.0%と潜在成長率（+1.8%）程度の成長を続けると予想されるもと、失業率は3%台前半で推移すると見込まれる。また、雇用は緩やかなペースで巡航速度（前月差+10万人程度）に減速すると予想する。



(出所) 米労働省

(注) U6：通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウント

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。